

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4092900010		
法人名	アースサポート有限会社		
事業所名	グループホーム めぐみ苑		
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市大崎738-1	(電話) 0942-23-8838	
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月1日		

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	階 ~ 全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) 100,000 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年3月10日現在)

利用者人数	12 名	男性	3 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊池整形外科医院 ・ 丸山病院 ・ 花田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周囲に麦畑や野菜畑、満開の桜などが窓から眺められる静かな環境の中に位置している。運営者は過去に高齢者や障害者施設に勤務した経験から、家庭的環境での暮らしが提供できるグループホーム設立に意欲的に取り組んだ。特に食べる行為に関しては、運営者及び職員がその重要性を認識して共有しており、過去に胃瘻になった利用者が経口摂取できるように改善されるなど、利用者一人ひとりを大切に支援が行なわれている。1階ユニット利用者が9名、2階ユニット利用者が3名であり、日中は1階にすべての利用者が集まって過ごされているが、業務日誌等にユニットごとの区別が無いので分けて管理されることが望ましい。利用者への言葉使いも人としての誇りを傷つけないよう常に職員、管理者と繰り返し話し合いながら支援されており、今後更に地域に根ざしたホームとして発展することが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題を管理者・職員で検討して、ご意見箱を玄関に設置するなど具体的改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、職員と一緒に話し合って自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、老人会会長、包括支援担当者、家族、地域住民など関係者と2ヶ月に1回会議を開催して外部評価の報告やホームの終末期介護への取り組みについて説明し、理解を求めている。参加者からは、利用者への声かけの方法などについての質問があり、会議での意見をサービス向上に活かしている。また、手続きなどでの諸問題がある時に、市町村担当者に相談して助言をいただいたり、困難事例がある場合に市町村と一緒に取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	利用者の生活・身体状況などを個別に手紙に書き、写真を添えて毎月郵送している。家族会を年1回開催している。面会時や電話連絡の折に家族から要望等を話してもらい易いよう工夫している。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事(七夕祭り)に参加して利用者が短冊に願い事を書いて飾ったり、小郡市の花火大会では近くの酒屋さんの庭で地域の人達と一緒に花火見学を楽しんでいる。また、ホームに近隣のお寺さんに来てもらってお茶会が催されたり、夏季にはホームの庭で行政、家族、町内会の方たちと一緒にバーベキューをしたりして、多方面での交流の機会が設けられている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明日はわが身、尊敬と感謝、思いやりの気持ちを大切に」という事業所独自の理念が、誰もが見やすい位置に掲げられている。地域との関係性についての明記がなかった。	○	既に地域との関係が築かれているので、理念にも明記されることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者は日々のミーティングや会議などで職員と理念を共有し、利用者に関わる場面で言葉かけや態度で日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(七夕祭り)に参加して利用者が短冊に願い事を書いて飾ったり、小郡市の花火大会では近くの酒屋さんの庭で地域の人達と一緒に花火見学を楽しんでいる。また、ホームに近隣のお寺さんに来てもらってお茶会が催されたり、夏季にはホームの庭で行政、家族、町内会の方たちと一緒にバーベキューをしたりして、多方面での交流の機会が設けられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題を管理者、職員で検討して、ご意見箱を玄関に設置するなど具体的改善に取り組んでいる。また、運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており職員と一緒に話し合っ自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人会会長、包括支援担当者、家族、地域住民など関係者と2ヶ月に1回会議を開催して外部評価の報告やホームの終末期介護への取り組みについて説明し、理解を求めている。参加者からは利用者への声かけの方法などについての質問があり、会議での意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	手続きなどでの諸問題がある時に、市町村担当者に相談して助言をいただいたり、困難事例などがある場合に市町村と一緒に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会へ職員の参加を勧めて制度への理解を深めると共に、利用開始時に家族へ説明して必要時に活用できるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活・身体状況などを個別に手紙に書き、写真を添えて毎月郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催している。面会時や電話連絡の折に家族から要望等を話してもらい易いよう工夫している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、新規採用等はその都度、家族へ報告している。新規職員が利用者にならなまでの期間は、他の職員が常に一緒に行動して利用者が安心して生活できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	運営者、管理者は職員を年齢や性別で採用対象から排除していない。また、職員の希望する休日取得も保障されており、社会参加や自己実現の権利に十分配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は利用者の人権を尊重するために、特に言葉使いの重要性を日々のミーティングや利用者への関わりの場面で、その都度職員へ説明して人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	かかりつけ医院の協力を得て、口腔ケアや摂食援助など口から食べることの大切さを職員研修会で実施して援助技術の向上を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会へ職員が参加し同業者と交流を図っている。また、参加した職員は報告書を作成して他の職員へ回覧することで内容を共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族来所時に心身の状況を詳しく聞いて課題、問題などを把握している。更に、利用開始前に本人の生活場所を訪ねて本人、関係者に会い状況把握に努めている。体験入居は受けていないが、入居時には信頼関係を築くために職員が連携して本人の思いをしっかり受け止めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理方法や味付けの仕方を教えてもらったり、鉢花などの植え付け方法などを教わったりして、共に支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始にあたり身体状況、医療情報、家族状況、住環境、趣味、趣好など、これまでの生活環境についての情報を家族や本人から得ると共に、日々のかかわりの中で意向を汲みとり、暮らしの支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のカンファレンス及び家族の来訪時の面談を基に介護計画作成者は、全職員と意見交換を行い本人の意向が反映された介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価し3ヶ月に一回の見直しをすると共に、必要に応じて随時見直しをして現状に即した新たな介護計画を作成し家族に報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や都合に合わせて受診の為の送迎、理美容院通いや入院時には、頻繁に見舞いに出向き洗濯物を持ち帰るなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望でこれまでのかかりつけ医での受診を支援している。事業所の協力医療機関があり、緊急の場合、夜間の往診など24時間適切な医療が受けられる体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り支援については、利用開始時に文書を取り交わすと共に、重要事項説明書に明記している。現在までに対象者はないが、家族や医師など関係者と話し合いを必要に応じての対応が出来るよう協力体制を整えている。また、重度化の場合の知識を得るための職員研修が予定されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に個人情報の取り扱いについての誓約書が交わされている、日常の介護においては、言葉遣いや対応についての意識を十分にもち利用者の誇りやプライバシーを保つように努めている。記録等の個人情報は所定の場所で管理・保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まですべてにおいて利用者一人ひとりの希望を最優先にしている。起床時間、就寝、食事、入浴など、日常生活の流れはあるが利用者の意志を最優先に考えている。また、体調にも十分配慮し、一人ひとりの生活時間にあわせ個別に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで採れた旬の野菜や近隣の方々より頂いた野菜を使って職員と一諸に調理の準備や片付けなど個々の能力に合わせた支援をしている。糖尿病の方々のために塩分控えめの味付けにし、職員も一緒に同じ食事を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	15時からの入浴としているが可能な限り利用者が希望する日時に毎日入浴できる体制をとり臨機応変に対応し、入浴時には利用者に人気のある音楽を要望に応じて順番に流して楽しみながらの入浴支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時のテーブル整理、居間のカーテンの開閉、カレンダーめくり、洗濯物たたみ、趣味のお茶、好きな歌手の唄、ビデオでドラマを見たり、手作りスゴロク、体操、利用者のピアノに合わせてのレクリエーションなど役割、楽しみごと、気晴らしが日常生活の中で一人ひとりの能力に合わせた支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	筑後川べりのコスモス見物、紅葉狩りなど季節ごとの花見やキリンビール工場までのドライブ、日常の買い物等の外出の支援をしている。また、利用者のその日の希望に合わせてうどん屋に外食に行く場合もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、入居当初の帰宅願望や利用者の不穏状態が見られる場合の入浴支援時に職員の対応が手薄となり安全が保てないため、止むおえず家族の同意をとり、一時的に玄関の施錠をすることがある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民や運営推進会議にて協力を求め避難訓練を実施している。また、避難経路、緊急時通報、消火器の取り扱い、夜間時対応など全職員に周知徹底している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立による食事、一人ひとりの食事や水分の摂取量は、詳細に記録されており、職員は情報を共有し一人ひとりの食欲や状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高く窓からは広い田園風景が眺められ、明るい居間には自由に掛けられるソファを置き玄関にもテーブルと椅子が置かれている。生活感や季節感をとり入れ居心地よく過ごせる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使い馴れた馴染みの家具や好みのカーテンを持ち込み、趣味の小物類、家族写真等が飾られ、床は全室畳敷きで、ベット以外に布団を使い、朝、夕自分で押入れに収納している方など自宅生活と同じ環境で生活できるよう工夫されている。</p>		